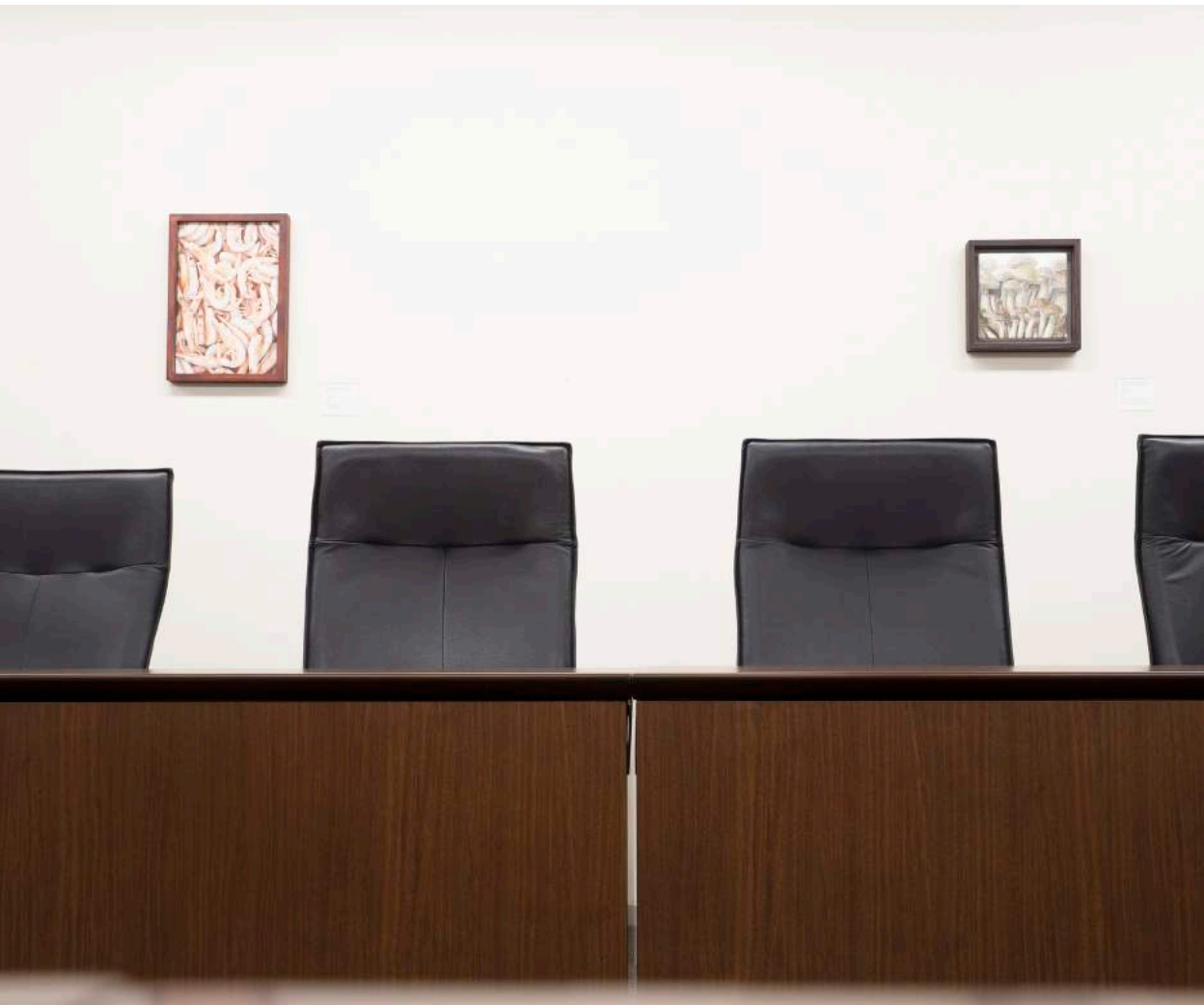


2017

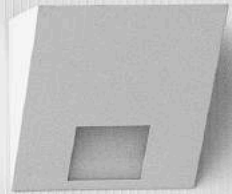
**An exhibition by students from
Musashino Art University
at RIKEN Yokohama Campus**



ABE Kazuma	01
ITO Mio	02
KAGEYAMA Moeko	03
KINOSHITA Riko	04
SAKAGUCHI Kana	05
NAKAMURA Fumitoshi	06
HAYAMA Hinano	07
MORITA Haruka	08
YE Siyao	09
AMEMIYA Hikaru	10
KIM Haein	11
MIYADERA Ayami	12
YASUKOUCHI Rena	13
NAKAZATO Tadahito	14



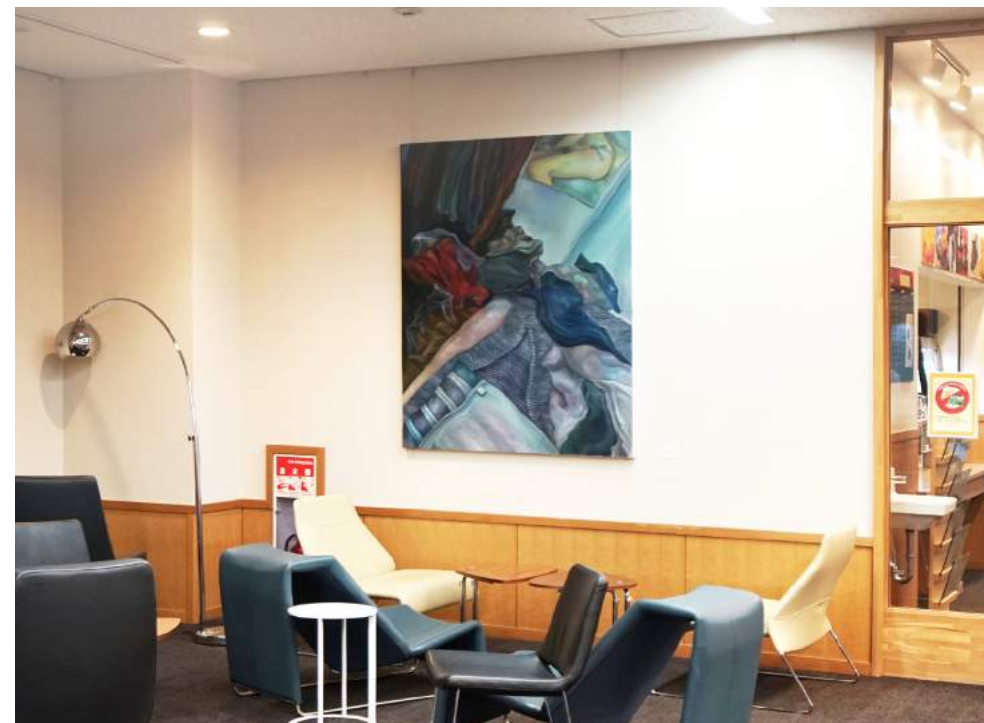
Painting



01

大学院 油絵コース 1年
阿部 一真
展示場所…交流棟1階、ラウンジ

室内風景を描きながら、そこに宿る人間性を描こうと常に思っています。
モチーフに自室を選んだので、より生々しい自画像となったと思います。



scenes
H162 × W130.3 cm
2017年
油彩、キャンバス

02

大学院 油絵コース 1年

伊藤 美緒

展示場所…交流棟1階、ラウンジ

どこかでみた景色、また会いたい景色を思いながら描きました。



draw

H130.3 × W162 cm

2017年

木製パネル、ケント紙、アクリル

03

大学院 油絵コース 1年

影山 萌子

展示場所…交流棟3階、エレベーター前／応接室

今まわりに見えるものを疑い、理解の及ばないところにあるものを受け入れることが私の制作目標です。
いくつかの異なる記憶の、共通した懐かしさを持つ物体を寄せ集めるなどして、共有できない「見え方」を
絵画に定着させることで、その方法を探っています。



とんでくからだ
H72.7 × W100 cm
2015年
油彩、キャンバス



切り抜き地点
H91 × W116.7 cm
2015年
油彩、キャンバス

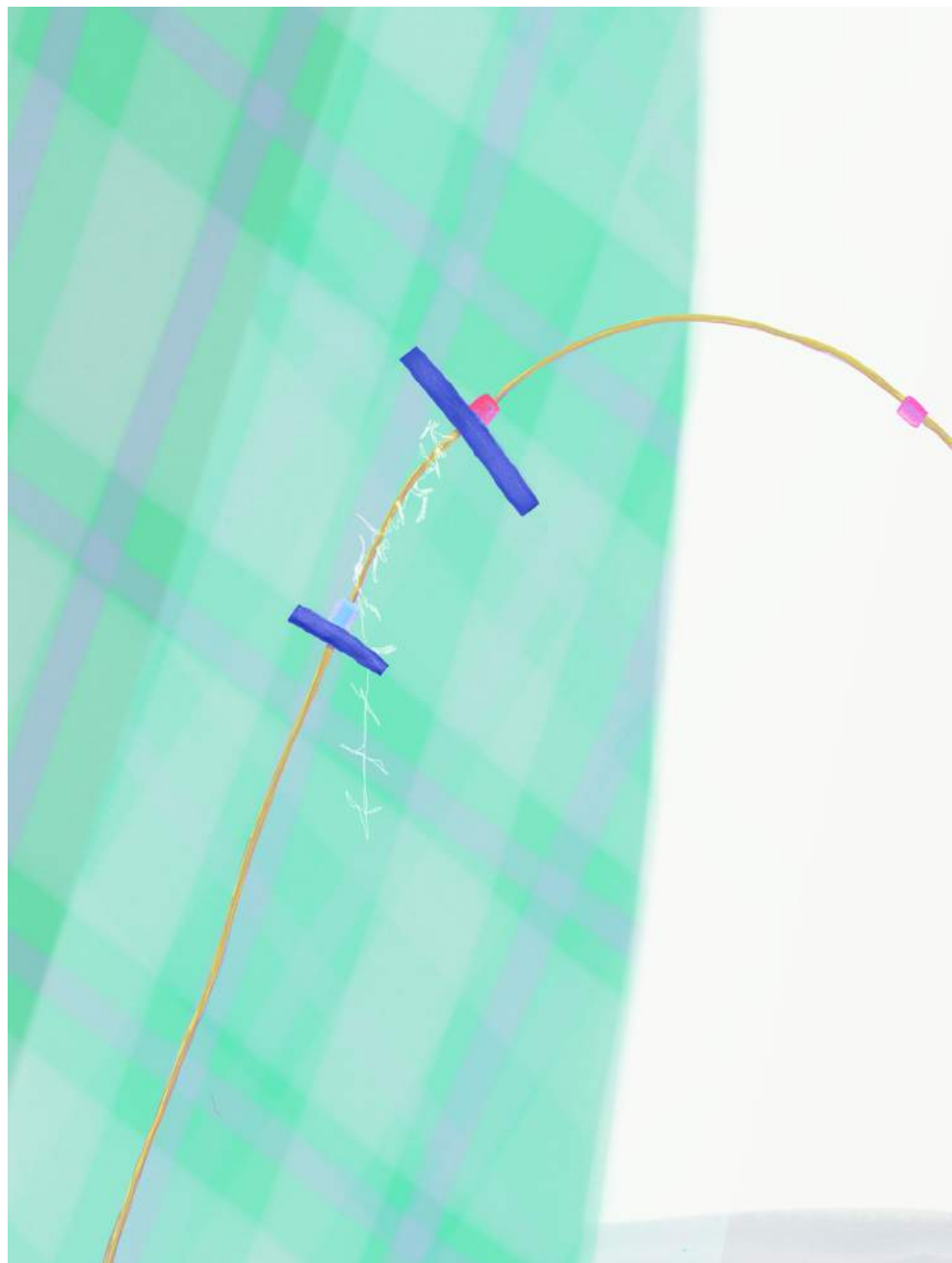
04

大学院 油絵コース 1年

木下 理子

展示場所…交流棟2階

ふとしたきっかけで、日常に埋もれていた不思議な何かに気が付き、「私は誰で、いったいどこにいるんだろう?」と思うことがあります。その何かは、日常生活の中で使われる単位や道具では計りきれません。美術は、それを計り得ることが出来る数少ない手段の一つだと考えています。



アイスクリーム・トポロジー
H112 × W84 cm
2017年
紙にインクジェットプリント、iPadドローイング

死ぬまで生きる
H112 × W84 cm
2017年
紙にインクジェットプリント、iPadドローイング



水が生まれるとき
H112 × W84 cm
2017年
紙にインクジェットプリント、iPadドローイング

宙返り
H112 × W84 cm
2017年
紙にインクジェットプリント、iPadドローイング

05

大学院 油絵コース 1年

坂口 佳奈

展示場所…交流棟1階、ラウンジ/交流棟3階、大会議室



カンヴァスを一つの部屋に見立て、家具や天井や壁を再配置してみる。
そこには生活の中にある機能を持った道具とは別に、私たちの身体で感じることのできる「ある」存在が見えてこないだろうか。
「ある」存在は、絵の具のリズムや時間の交差が重なり合うことでようやく目の前に現れ、人はそれを再び身体で受けとることができる。



room
H91 × W116.7 cm
2015 年
油彩、キャンバス

重なり合う時間について
H109.1 × W78.8 cm
2015 年
紙、水彩

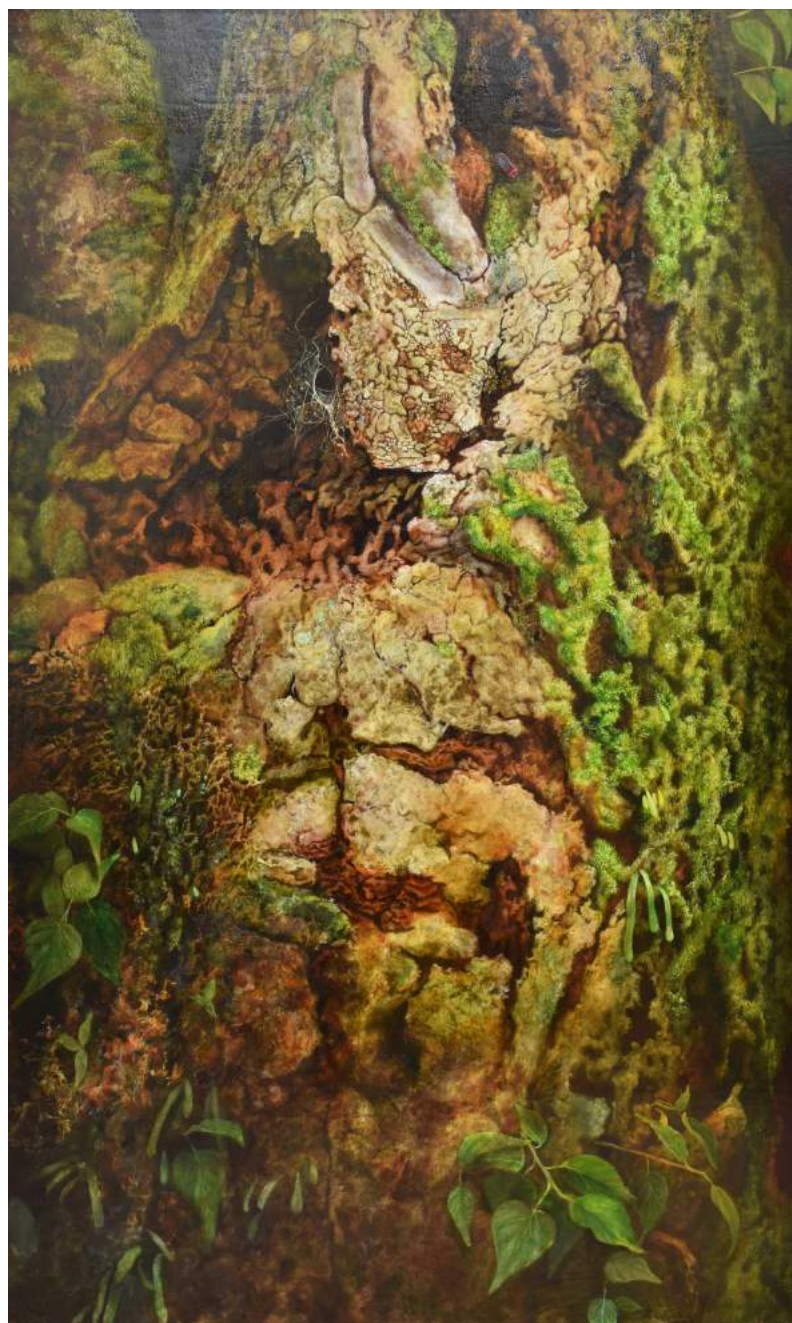
06

大学院 油絵コース 1年

中村 文俊

展示場所…中央研究棟 2階、図書館 / 交流棟 3階、大会議室

命がまだあるもの、命が消えかかっているもの、命が無くなったもの
それぞれは全く違うものだが、じっくり見つめると、どこからかエネルギーや圧力、
そして恐ろしささえ感じられる共通点がある。私はその漠然とした何かを描き出した。



柱
H91 × W55 cm
2015年
油彩、パネル



さくらえび
H41 × W27.3 cm
2016年
油彩、パネル



fungus
H22.7 × W15.8 cm
2014年
油彩、パネル

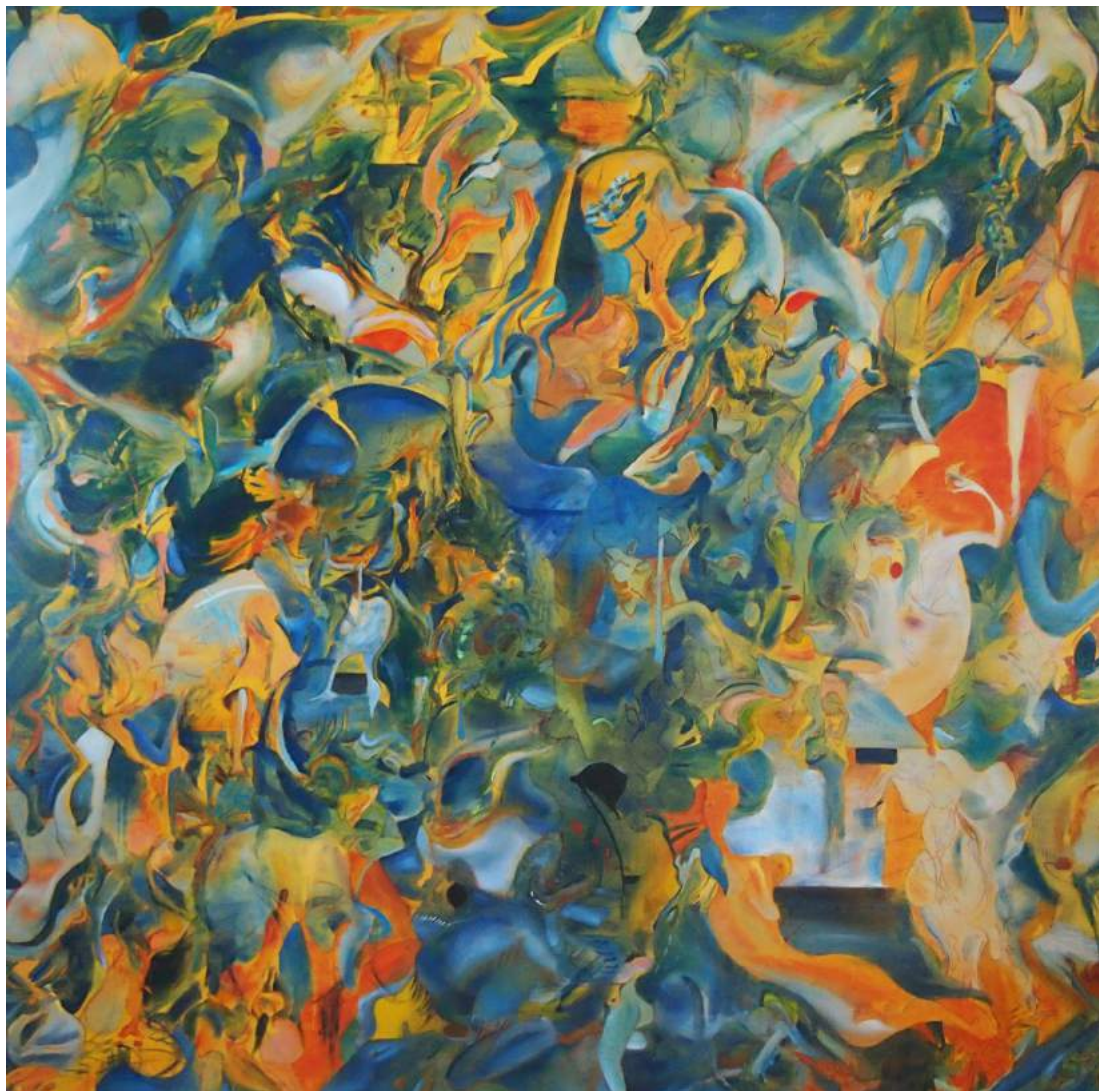
07

大学院 油絵コース 1年

葉山 ひなの

展示場所…交流棟 2階 / 中央研究棟 2階、C212

日々の営みの中で、弾かれたように私は私という個を意識する。肉体を持つ私ははっきりと私なのだ。そして意識は緩やかに外界と解け合う。私も生命の大きな流れの一部である。そう実感できるのは、ここにある身体がそれを感じとっているからに他ならない。日々の雑感をなぞる。線の集積でこの感覚を具象化できるといい。



滴
H116.7 × W116.7 cm
2015年
油彩、キャンバス



呼吸と日差しのリズム
H194 × W259 cm
2016年
油彩、キャンバス

08

大学院 油絵コース 1年

森田 晴香

展示場所…交流棟 2階

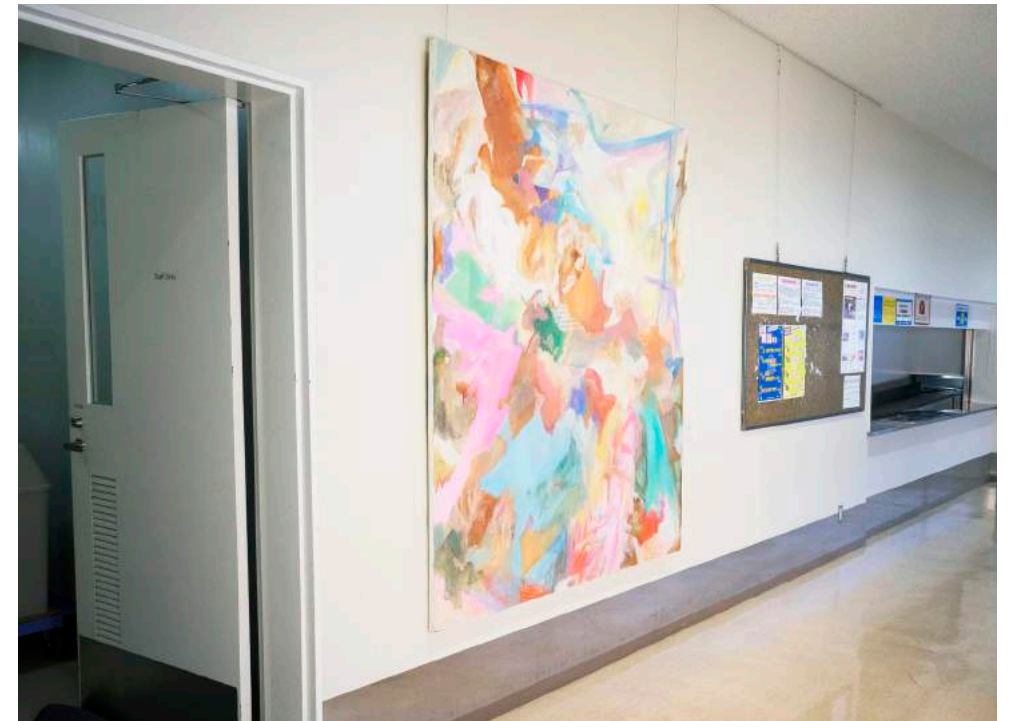
この絵のテーマは " 始まり、連続性 " です。

自分で撮った写真をコラージュしたものをもとに、色彩構成した作品です。

リズム感や空間の広がりを目指して描き、色彩は普段自分が使わない暗い色にも挑戦して描こうとしました。

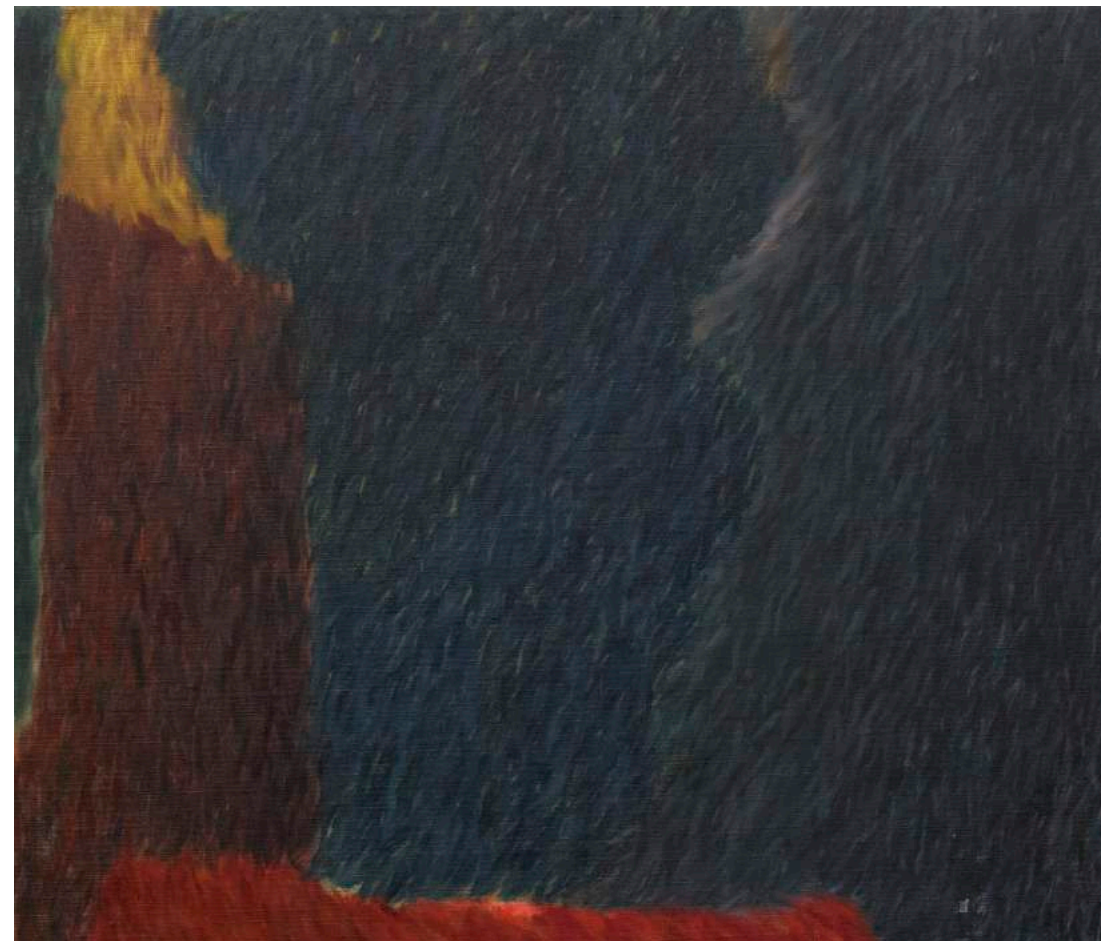
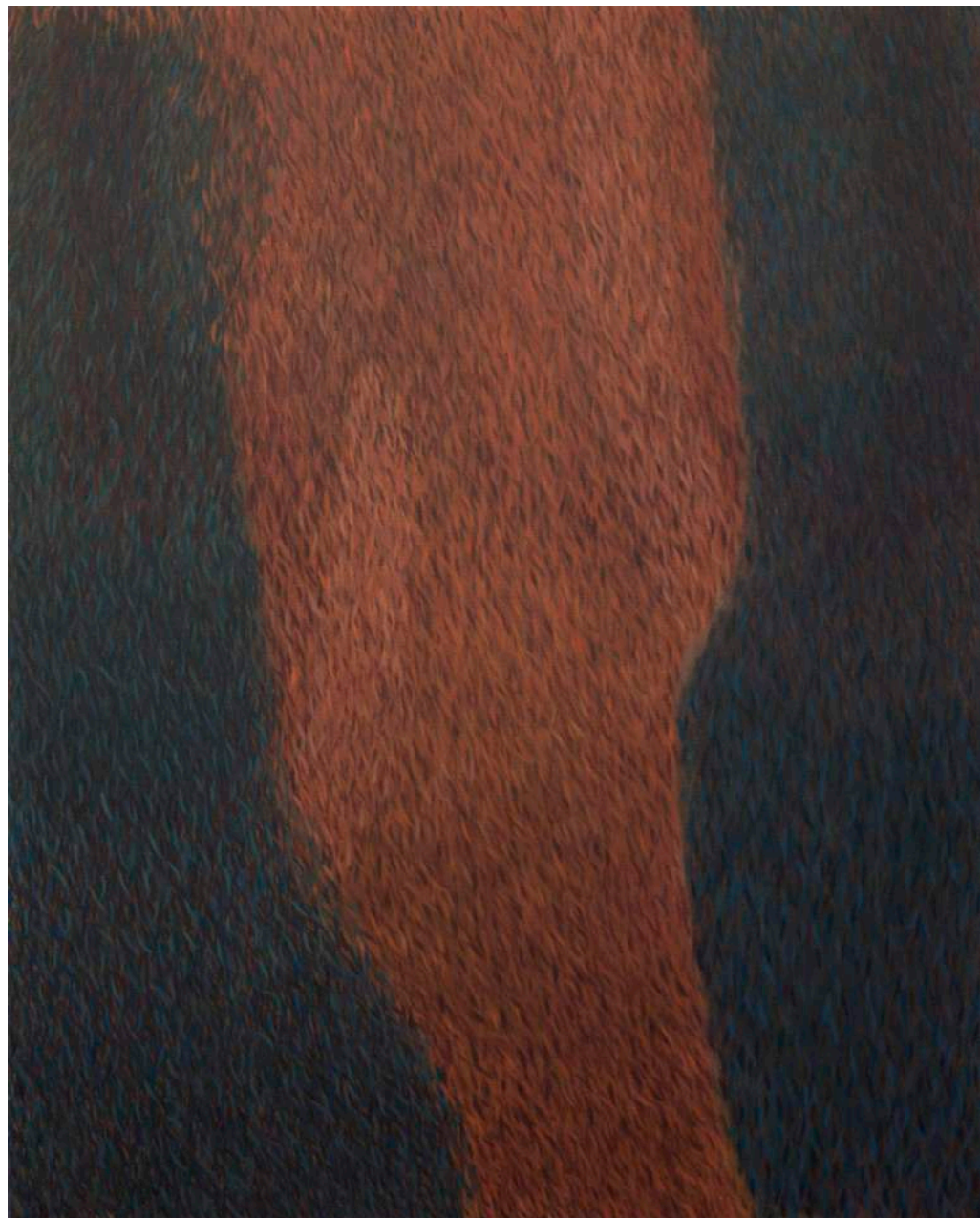
抽象的なものにしたのは具象により物事が限定されてしまうのに抵抗があったからですが、

最近は大いぶ意識が変わってきています。



succession
H194 × W162 cm
2016年
油彩、キャンバス

管状の物の表面を撫で、摩擦で中空になっている内部で伝わっていく振動を聞く代わりに、結局その表面を糸でグルグル巻きにして立てかけて置いた。その短絡は、絵で起こる所作すべての動機でもある。



未明
H45.5 × W53 cm
2016年
油彩、キャンバス

未明 [足裏に冷たい石礫]
H162 × W130.3 cm
2016年
油彩、キャンバス



Print making

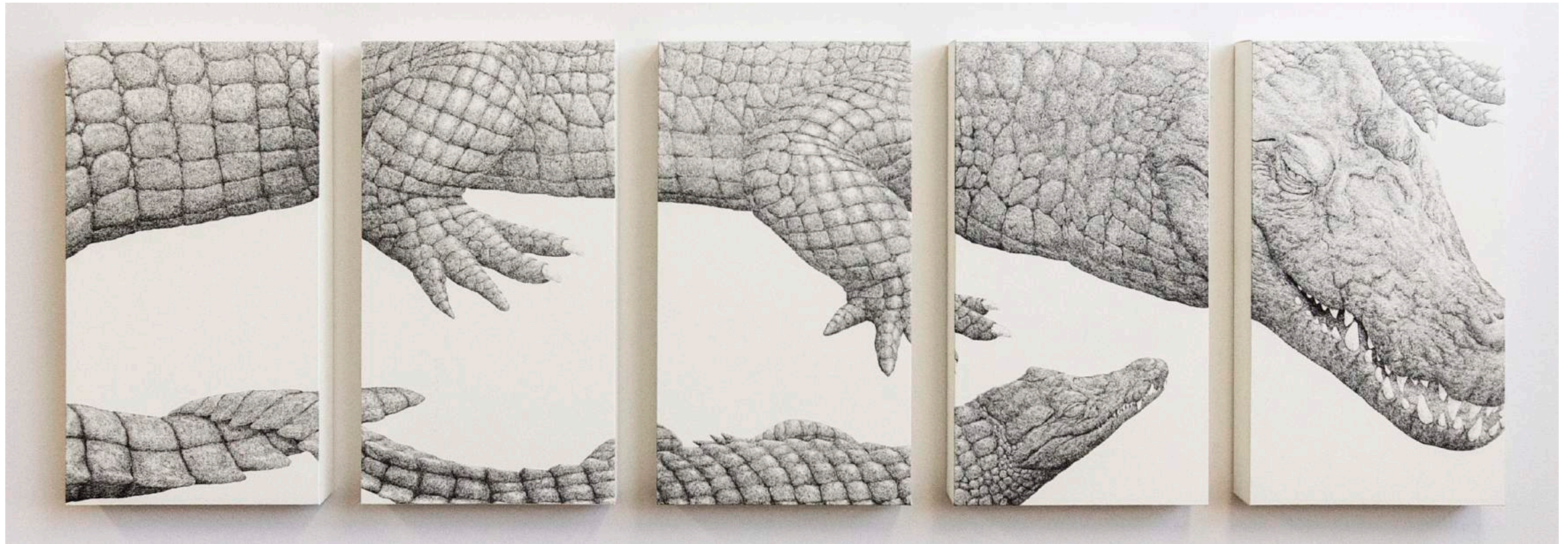
10

大学院 版画コース 1年

雨宮 ひかる

展示場所…交流棟2階、食堂

誰にでも隠したい一面がある。誰だって抱えている薄汚れたものがある。
自分に対して隠しきれないその一部を、あの瞳は貫くように見つめてくる。



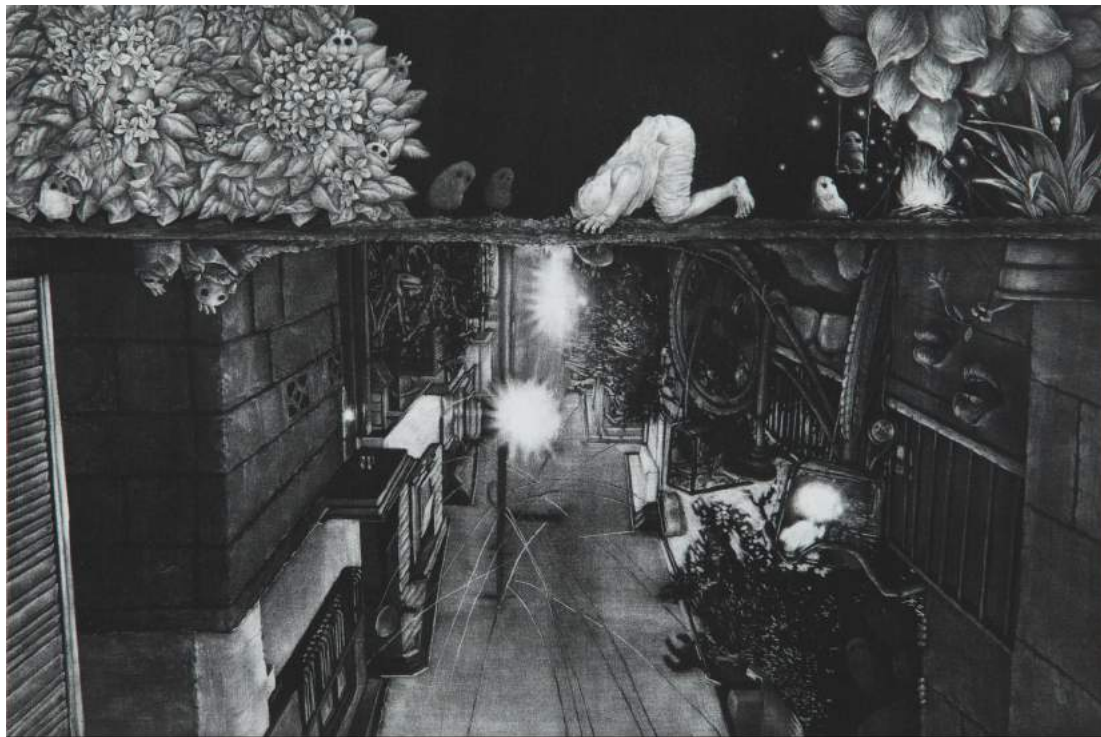
誰にでもある隙間から

W149.5 × H54.5 × D8 cm

2017年

エッチング

目に見えるこの風景は他の人の目にも同じように見える普遍的なものではなく、自分の内面・過去、トラウマ、思想等によって見える自分だけの世界。作品のテーマは「日常とファンタジーの共存」です。私は、幼い頃に体験した不思議な出来事から、幻想の存在を信じるようになりました。その想いは、私と共に成長して、自分が経験した「社会的関係から来る痛み」より形象化した「ファンタジー」を、馴染みのある風景のあちこちに「隠す」といった形へと発展しました。



共存 #2
W80 × H70 cm
2012 年
メソチント



彼の生きる世界
W80 × H70 cm
2011 年
メソチント

12

大学院 版画コース 1年

宮寺 彩美

展示場所…交流棟2階、食堂

旅先で撮った写真を元にして絵を描く。

そこに居なかった人や物を画面の中に引き寄せてありそうでない風景をつくっています。



こいでゆこう
W110 × H80.6 cm
2017年
リトグラフ

13

大学院 版画コース 1年

安河内 玲菜

展示場所…交流棟2階、食堂

夜の暗闇に浮かび上がる光を描いています。

日々の生活の中で面白いと思う事や不思議だと思ふ事を題材にして制作しています。



week end

W78 × H56 cm

2017年

エッチング、アクアチント



Sculpture

14

彫刻学科3年

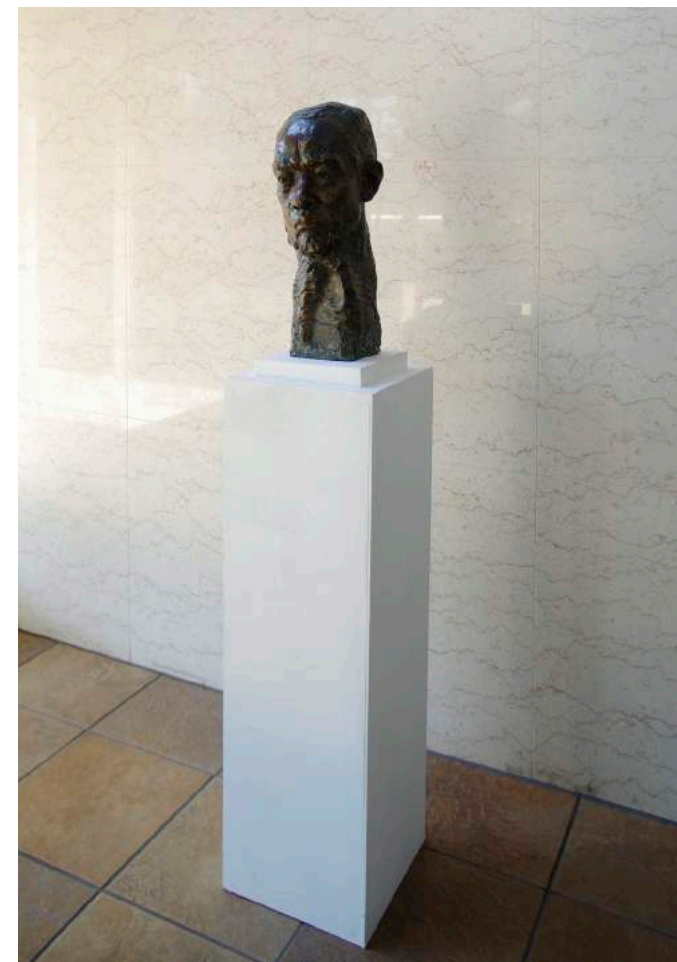
中里 忠仁

展示場所…北研究棟1階、エントランスホール

台座から立ちあがる首は、モデルの内面に焦点をあてて作りました。
その静かな中にも激しさのある特徴を、荒い粘土付けで表現できたらいいと思います。
ブロンズは、色味を付けては磨き落とす作業を何度も重ねます。根気のいる作業ですが、
深みのある表情の中から、鈍く光ってくるものを見つけたときは、また一つ作品の魅力が増
えたような気持ちになり、嬉しくなります。



首像
H49 × W21 × D20 cm
2017年
ブロンズ・木(台座)



2017

An exhibition by students from Musashino Art University at RIKEN Yokohama Campus

目 的

理化学研究所展示プロジェクト2005と題されてスタートしたこの展示は、科学と芸術の健全な発展のために発案されました。国立研究開発法人 理化学研究所はライフサイエンス分野において科学技術の最先端研究を推進していますが、最先端であるがゆえに科学者の人間性が新しい現象の発見や技術開発に繋がることも多分にあり、このような科学者の精神活動は芸術家の創作における精神活動と似た側面を持っているように思われます。このプロジェクトは武蔵野美術大学の教育の場で産み出された学生たちの優れた作品を多数の科学者に紹介することにより、科学者の精神活動にどのような影響を与えるか、また科学者から若い芸術家にも何らかの影響を与え将来の創作活動の参考にもなるようなことがあれば、芸術と科学という異分野の交流・触発という観点から非常に好ましいものになるのではないかと考えられ、計画されたものです。



出品：

阿部 一真
伊藤 美緒
影山 萌子
木下 理子
坂口 佳奈
中村 文俊
葉山 ひなの
森田 晴香
葉 思堯
雨宮 ひかる
金 海仁
宮寺 彩美
安河内 玲奈
中里 忠仁

【理化学研究所】

鈴木 貴 (横浜事業所 所長)
岩田 伸一 (横浜事業所 研究支援部 部長)
中村 学 (横浜事業所 研究支援部 総務課 課長)
森 容子 (横浜事業所 研究支援部 総務課 副主幹)
長田 麻理子 (横浜事業所 研究支援部 総務課)
渡邊 史郎 (横浜事業所 研究支援部 総務課)

【協賛】

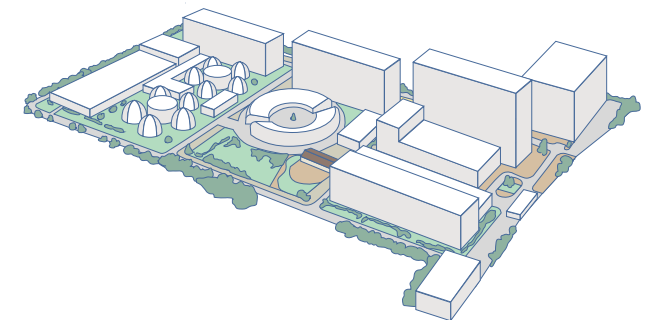
理研共済会 横浜部会

【武蔵野美術大学】

赤塚 祐二 (油絵学科油絵研究室教授)
元田 久治 (油絵学科版画研究室准教授)
伊藤 誠 (彫刻学科研究室教授)
芹田 真奈美 (油絵学科油絵研究室助手)
倉田 悟 (油絵学科油絵研究室助手)
赤本 啓護 (油絵学科版画研究室助手)
門田 訓和 (彫刻学科研究室助手)

発行日：

2018年2月28日





理化学研究所 横浜事業所
油絵学科油絵研究室
油絵学科版画研究室
彫刻学科研究室

